



## 経営幹部向けブリーフ

# 進化する製造作業のニーズに対応するERPシステムを選択

## 製造

原材料を完成品に効率的に変換することは、今日の工場の壁を越えて、ビッグデータやモノのインターネット（IoT）などの進歩が外部コラボレーションを可能にし、オペレーション革新を推進しているグローバルなバリューチェーンを見据えることを意味します。進化するビジネスプラクティスと絶えず変化する市場に対応するために、メーカーは調達、プロジェクト管理、運用、販売、その他の日常業務をサポートするだけでなく、ビジネスの要求に応じていつでもどこでも簡単にシフトできる柔軟性を提供するエンタープライズリソースプランニング（ERP）システムを必要としています。

最新のERPシステムは、人工知能（AI）と経験主導型の性質を反映するだけでなく、クラウドベースのデジタルビジネスで重要な役割を果たすことから、**デジタルオペレーションプラットフォーム（DOP）**と呼ぶ方が適切かもしれません。適切なデジタルオペレーションプラットフォームは、メーカーがビジネスに影響を与える外部要因に迅速に対応できるようにするとともに、競争上の優位性を維持するのに役立つオペレーション革新を導入するためのアジリティを提供します。

最新のERPシステムを選択する場合、メーカーは以下の基準を考慮する必要があります。

## 業界およびビジネスプロセスの深さ

今日の製造作業は複雑で、物事を円滑に進めるには、社内外の包括的なエコシステムが必要です。ERPシステムを選択する際、メーカーは、財務や戦略計画から作業現場管理、品質管理、スケジューリングまで、完全な製造作業を管理するために構築されていることを確認しなければなりません。さらに、ERPシステムは、**製造業特有のニーズ**を満たすように設計する必要があります。これは、醸造企業では、タンクスケジューリングの組み込み、米国の航空宇宙および防衛メーカーでは、連邦政府のセキュリティコンプライアンスの準拠を意味するといえます。最新のERPシステムは、新しいサービスの追加や世界中での新たなオペレーションの開始など、メーカーの展開に合わせて拡張できる柔軟なクラウドベースのシステムである必要があります。

最新のERPシステムは、製造作業を可能にするだけでなく、テクノロジーも活用しています。これは、ビジネス分析、エンタープライズ資産管理（EAM）、さらには商用ネットワークの組み込みなどの機能を備えたビジネスエコシステムの統合的な基盤として機能する必要があります。メーカーの特定のニーズに応じて、ERPシステムは、製品ライフサイクル管理（PLM）、Human Capital Management（HCM）、製品構成ツールなど、他のより専門的なアプリケーションとシームレスに統合できる必要があります。

メーカーは、特有の業界および運用上のニーズに対応する補完的なアプリケーションを使用して、ERPシステムを中心に完全なデジタル運用プラットフォームを簡単に構成できる必要があります。理想的には、業界固有の機能をERPシステムに直接組み込み、メーカーがビジネスで本当に比類のない特定の主要プロセスに集中できるようにする必要があります。最新のERPシステムはカスタマイズではなく構成に依存しているため、メーカーはコーディングの必要なく継続的なクラウドアップグレードの恩恵を受けることができ、ビジネスニーズの変化に合わせて、将来の柔軟性を確保することができます。

## 複雑なワークフローのサポート

適切なERPシステムは、メーカーが競争上の優位性とビジネスアプローチを維持するのに役立ちます。プラットフォームは、メーカー独自のビジネス要件とワークフローに合わせたエンタープライズ機能の急速な開発に対応できる必要があります。最新のERPシステムは、メーカーが独自のアプリケーションやモバイルアプリを構築し、メーカー固有のビジネスニーズに合わせて組み込まれた独自のワークフローを自動化できる拡張性をサポートする必要があります。

最新のERPシステムは直感的で使いやすく、ソフトウェアを拡張するために複雑なソースコードやプログラミング言語にユーザーが豊富な知識を必要としないものであるべきです。更新またはアップグレードが展開された場合でも、システムの拡張が引き続き機能することが重要です。そして、今日のワークフォースはモバイルであるため、ERPシステムはデスクトップ、タブレット、スマートフォンを介して使用するために最適化する必要があります。

## セキュリティとリスク管理

ERPシステムの選択は、データセキュリティに対する包括的なアプローチを確実にサポートすることを含みます。セキュリティを優先する環境を醸成することで、メーカーは有害なサイバー攻撃を最小限に抑え、場合によっては防止することができます。より安全な技術インフラストラクチャへの道筋を導くことができる原則と実施項目をいくつかご紹介します。

- **安全なクラウドフレームワークを採用**—メーカーは、ISO 27001、ITAR、FedRAMPなどの認定規格への準拠が認められたフレームワーク内に、可能な限り多くのコンピューティング機能を配置する必要があります。一流のクラウドインフラストラクチャプロバイダーは通常、これらの基準を遵守し、新しく進化するセキュリティ標準に引き続き準拠するための継続的なプロセスを維持します。
- **現行の業界およびテクノロジーのセキュリティ基準に従う**—FDAの規制やHIPAAやITARなどの基準に従い、特定の業界にとって重要な種類の情報に関するセキュリティを最適化するように設計されています。効果的なセキュリティを実現するには、メーカーとそのクラウドインフラストラクチャプロバイダーの両方が、製造業と特定のビジネスプラクティスに関連するセキュリティ基準を満たす必要があります。
- **コンプライアンス検証サービスを利用する**—規制やセキュリティのコンプライアンスの評価を専門とする第三者コンサルタントは、適切なセキュリティへの取り組みが、メーカーを適切な状態に保つように、有益で公平な評価を提供することができます。

## 柔軟なアプリケーション環境

オンプレミス、クラウド、またはその両方でも、アプリケーションがどこに展開されているかに関係なく、データにアクセスし、ビジネスプロセスをシームレスに実行できるERPシステムを探してください。メーカーが、廃止を見合わせている、または廃止できない既存のアプリケーションを持っている場合、ERPシステムが第三者のアプリケーションであるか、同じベンダーからのものであるかにかかわらず、それらとうまく統合し、実行できることが非常に重要です。ERPシステムは、複雑になりがちなアプリケーションを連携させ、情報のサイロ化を排除する柔軟性を備える必要があります。ERPシステムをアップグレード、交換、または故障しても、ネットワーク全体をダウンさせないことが極めて重要です。

## サプライヤーおよび顧客のエコシステムとのコラボレーション

メーカーが選択するERPシステムは、企業の枠を超え、顧客、サプライヤー、パートナーアプリケーションを含む完全なテクノロジーエコシステムを接続することができる必要があります。メーカーは、これらのエコシステム内で、優先順位の設定、サプライチェーン戦略の計画と実行、市場や顧客の要件の変化に迅速に適応しながら段階的な改善の推進、財務的成果に留意しながら需要の変化と供給の変化を結びつけるなど、多くの主要な責任を負っています。すべてのステークホルダー間のシームレスなコミュニケーションを実現することで、ERPシステムは生産性の向上、効率的な意思決定、エラーの低減、顧客満足度の向上を可能にできます。一方、レガシーERPシステムは、多くの場合、非構造化コミュニケーションの環境を作り出し、サプライヤーと顧客のエコシステム間の混乱やコラボレーションの欠如を引き起こします。

## データ分析とAIのためのデータ接続

多くの組織は、ファイル、スプレッドシート、データベース、クラウドベースのアプリケーションなど、複数の場所にデータを持っています。データは、今日のデジタルビジネスの世界において、最も価値のある単一の資産であると考えられています。アプリケーションのサイロ間でデータを接続し、そのままの形式で取り込むことで、多くの新しい、異なる、さらには予期しない用途に再利用できるのです。メーカーは、オペレーションの改善、より多くの顧客へのアプローチ、革新的な製品やサービスの創出など、データを競争上の優位性に変える機会があります。

最新のERPシステムは、メーカーがデータ主導型の意思決定の文化を醸成する大きな可能性を提供します。これにより、異種のアプリケーション、人、IoTインフラストラクチャによって生成されたデータを取得、保存、分析することができます。**機械学習とAI**を組み合わせることで、メーカーは大量のデータを分析して、パターンを発見し、リアルタイムの需要を検知して対応し、収益性の高い機会を特定し、高い精度で提案を行うことができます。AIは、メーカーがサプライチェーン、販売、製造プロセスを最適化するだけでなく、成長への新しい機会と道筋を見出すための新しいアプローチを採用する手助けとなる可能性があります。

## 将来を見越して設計された拡張性とスケーラビリティ

革新的な新しいビジネスモデルは、多くの市場を混乱させています。場合によっては、テクノロジーがこれらのイノベーションを推進しています。しかし、ほとんどの場合、メーカーはこれらの新しいビジネス手法をサポートするテクノロジーを求めています。

**クラウド**は柔軟なプラットフォームを提供し、メーカーは継続的なデジタル変革に従事して、ビジネスの成長、差別化、およびビジネスモデルとプロセスを変革するアジリティをサポートできます。

「従来の」ビジネス手法では、組織のIT部門は既存のインフラストラクチャとオンプレミスソリューションの維持に重点を置いていました。その結果、ITリソースでは、防御的な運用を余儀なくされ、稼働を維持するだけでも大変な労力を要することが多くありました。ITでは、基本的なことに適切に対処しようと常に苦勞しており、多くの場合、ビジネスの変化を促進し、近代化するために、**組織のより戦略的なイニシアチブをサポートする**には手薄になっています。メーカーは、「従来の」堅固でモノリシックなアプリケーションを、アジリティ、コンフィグレーション、拡張性、相互運用性を備えた最新のコンポーネントベースのソリューションに変換する必要があります。

最新のクラウドベースのERPは、ビジネスに新たな機会をもたらすことができ、価値の高い拡張アプリケーションから業界主導のソリューションまで、幅広い革新的なテクノロジーをより簡単かつコスト効率良く活用できます。拡張性機能を活用することで、メーカーは、コードの変更を一度も行うことなく、ERPシステムの能力を設計されたもの以上に拡張できます。

また、クラウドベースのERPにより、メーカーはリソースとコンピューティング処理能力を容易に拡張し、進化するビジネスニーズに効果的に合わせることができます。重要なビジネスアプリケーションをクラウドで運用することで、メーカーは最新のエンタープライズ機能を提供する自動アップグレードをシームレスに体験できます。

## アジリティのためのデジタル基盤を得る

現代では、メーカーにアジリティが求められます。ソーシャルネットワークワーキング、モバイル機器などの即時通信手段は、すべてが世界規模であるため、情報が文字通り光の速さで伝わります。今日のメーカーは、市場の急激な変化、顧客の予期しない要求、サプライチェーンの混乱など、ビジネスに影響を与える可能性のあるあらゆる問題に迅速に対応できなければなりません。

テクノロジーはこのような課題を加速させるだけでなく、メーカーが迅速かつ適切に対応するための手段も提供します。最新のクラウドベースのERPシステムは、特定の業界やビジネスプロセス、ワークフロー、ビジネスを定義する複雑なアプリケーション環境をサポートできます。シームレスな統合と拡張性、社内外のコラボレーション、高度なデータ分析のサポートにより、メーカーはこれらの課題に対応するだけでなく、関連データへの即時アクセスとリアルタイムの通信機能によって、メーカーはさらに一歩前進し、競合他社よりも迅速に対応できるようにすることで、これらの課題をチャンスに変えることさえできます。

また、最新のクラウドベースのERPシステムは、ビジネスの成長に合わせて容易に変革できるアジリティを備えたデジタル基盤を構築できます。ビジネスの進化は避けられないものです。適切なERPシステムを選択することで、メーカーのビジネスシステムとプロセスが進化し、明日が待ち構えるものが何であれ対処できます。

## 選定プロセス中にERPベンダーに尋ねる10の質問

1. 貴社のソフトウェアを使用することで、弊社のビジネスはどのくらいの期間で稼働できますか？
2. ソフトウェアのコーディングやカスタマイズに大きく依存することなく、ビジネス特有のニーズをどのように設定できますか？
3. モバイル機器からどのような機能や性能にアクセスできますか？
4. システムアーキテクチャは第三者のアプリケーションとどのように統合されますか？
5. 貴社のソフトウェアは、社内外のステークホルダーとのシームレスなコラボレーションをどのように実現していますか？
6. 導入と実装をサポートするには、どのようなサービスを利用できますか？
7. 貴社が提供するAI機能は、弊社の業務にどのように役立ちますか？
8. 貴社のソフトウェアは、どのような業界固有の機能を提供していますか？
9. 貴社のクラウドプラットフォームは、データをどのように安全に保ちますか？
10. どの業界固有のセキュリティ基準に準拠していますか？

[詳細はこちら](#) ➔

フォロー：    



インフォアは、業界特化型のビジネスアプリケーションをクラウドで提供しています。17,000人の社員が、175か国以上で65,000以上のお客様のビジネスを支援しています。詳しくは、[www.infor.com/ja-jp/](http://www.infor.com/ja-jp/) をご確認ください。

Copyright© 2023 Infor. All rights reserved. 本文に記載の文字商標および 図形商標は、インフォアおよび/またはその関連会社ならびに子会社の商標および/または登録商標です。本文に記載のすべての他の商標は各所有者の所有物です。 [www.infor.com](http://www.infor.com).

東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル16階

INF-2294266-ja-JP-1123-1